責了前だけど……できますか？

制作途中での突然の仕様変更、でも十分な時間や予算が取れない…、
そのような要望に、効率的かつ事故リスクの少ない対処法を提案しています。
今回は、当社の最新の対応事例をいくつか紹介します。

■事故のない確実な印刷用PDFを作成する

校了となり、印刷会社へネイティブデータを入稿したところ、未対応のフォントが使われているためPDFで入稿してもらえないかと言われてしまいました。

急ぎで印刷用PDFをいただけますか？

モリサワやフォントワークスなど大手メーカーのフォントであれば問題はありませんが、入稿データに特殊なフォントが使用されていると印刷会社からこのような連絡をもらう場合があります。

本来であれば校了の前段階で、アプリケーションやフォントについて、それらが問題なく使用できるかどうか印刷会社とすり合わせをしておく必要があります。しかしPDFなら、印刷会社にアプリケーションがなくても扱うことができ、フォントが埋め込まれているのでフォントを持っている必要もありません。そのため、印刷会社は入稿データに問題があった際、PDFでの再入稿を求めがちです。

ただ、もしデザイナーや組版会社に上のような依頼をして、何も言わずにすぐ対応してくれたとしたら、それは単に印刷用の形式で書き出し直しただけのPDFかもしれません。

PDFは書き出すたびに、頻度は多くありませんが文字化けや画像の欠け、ズレなどのトラブルが発生します。→MCR21　もしそのようなエラーが発生したデータを入稿してしまい、そのまま印刷されてしまっても印刷会社の責任ではありません。

当社ではその危険性をお客様にお伝えしたうえで、書き出した印刷用PDFと校了時のPDFとのデジタル照合検査を行っています。→MCR13　そのための時間を少々いただきますが、事故のない確実なPDFデータをお渡しいたします。

■ルビの付き方が異なる別バージョンを作る

読者層の年代を考慮して必要な漢字にのみルビを入れていました。しかし、校了間際に編集長から「総ルビにした別バージョンのデータを作成するように」との指示が。

指定を入れる時間も校正時間もありませんが、総ルビにできますか？

この商品は小学校高学年がターゲットの児童書だったので、入稿時に小学5年生以降に習う漢字に対してルビを指定していただいていましたが、今回の要望ではそのような時間をあらためて取ることができないため、以下のよう全行程をほぼ自動で行いました。

まずは現状のデータをすべてPDFに書き出しておきます。その後、当社のルビ入力支援システムで読みを自動生成し総ルビにします。→MCR24　このシステムは学習辞書機能を持っており高精度ですが、それでも人名など元々入っていたルビが変化する可能性があります。そのため、処理前後のPDFのデジタル照合検査を行い、ルビが変化していた箇所は処理前の読みに直しました。→MCR13

さらにその際、元々入っていたルビと処理後に加えられたルビを色分けして、データ上区別しておきました（見た目の色は変わりません）。こうすることで、総ルビ版のデータを別に作成することなく、ひとつのデータから両方を出力できるため、改訂時の修正もスムーズです。

当社のシステムは、総ルビへの変更だけでなく「小学校○年生以降に習う漢字にルビを入れる」等の処理も自動で行なえます。入稿時でも校正途中でもその処理が可能です。新学習指導要領（平成29年3月31日告示、令和2年度実施）の学年別漢字配当表にも対応しています。環境設定で新配当表または旧配当表のどちらかを指定できます。

■特定のスタイルの文字を索引用に抽出する

非常にタイトなスケジュールで制作した書籍。印刷会社への入稿を翌日に控えた状況でやっと本文は責了となりましたが、まだ索引に全く手がついていません。

原稿作成から組版、そして校正までを1日で行うのは難しいでしょうか？

索引の作成は、本文の校正が最終段階にならないと内容やノンブルが確定できないこともあり、どうしても後回しになりがちです。今回相談のケースでは、索引に収録する語句は章タイトルと本文中の太字であり、ともにInDesign上でスタイルが設定されていました。そこで、当社のデータ抽出専用プログラムを用いて、章タイトルと本文中の太字を、掲載ページのノンブルと一緒にCSVデータとして抽出。MCR38 Excelで読み生成とソートを行ってからInDesignで索引ページを作成し、なんとか当日中に校了まで持っていくことができました。

InDesignには索引機能がありますが、MCR29 必ずしも今回のケースのように後から索引語を抽出できるわけではありません。入稿前にどのような索引にするのかご提示いただければ、より効率的な制作フローをご提案いたします。

■画像を裁ち落とし分まで伸ばす

印刷会社から画像が仕上がり線までしかなく、このまま製本すると白い部分が出てしまう可能性があるので再入稿してほしいと言われました。

データは直せますか？　また、他にもそのような画像はないでしょうか？

当社では出校前に検査を行うため、こういったデータを下版することはありませんが、出版社から印刷会社へ直接データ入稿された際によく発見され、相談をいただくことがあります。

該当の画像を確認したところ、データ自体が仕上がり線までしかなく、拡大することもレイアウト上できませんでした。そのため、今回のケースでは元画像の一部を移植して違和感なく繋げ、裁ち落とし部分まで画像を造り足しました。当社では、色の補正だけでなく様々な画像加工処理を行っています。MCR37

さらに、他にも同様の画像がないか、PitStopという専用アプリケーション使い、機械的に検査を行いました。MCR46 その結果発見されたいくつかの画像についても適宜処理を行い、データを納品しました。

■2色データを1折分だけ4色にする

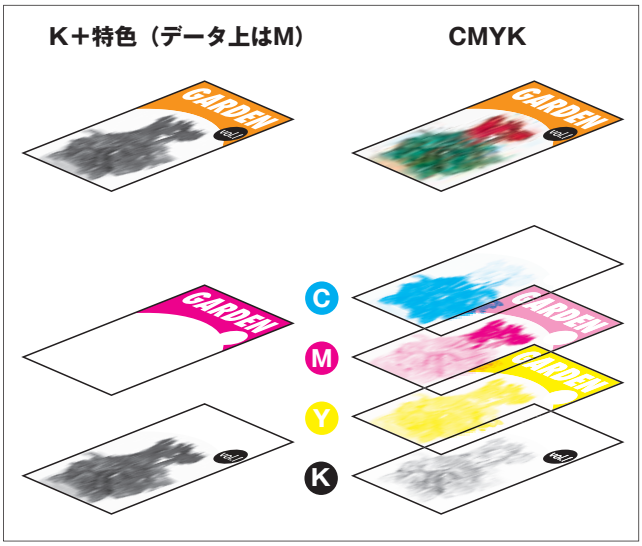
PDFデータを下版し印刷する直前に、著者から「この写真はカラーで載せてほしい」との要望がありました。印刷会社に相談して急遽その折だけ4色で印刷することになりました。

どんな手順で4色化すればいいでしょうか？

この書籍はスミ＋特色の2色で、特色はM版で作成されています。すでに校了していることもあって、4色化に伴う作業で紙面に変化が起きないよう、なるべく校了データに変更を加えないフローを採用しました。

まず、グレースケール化していた該当写真について、入稿時のデータに戻ってカラー補正を行い、画像を差し替えます。そして、該当ページのみ印刷用PDFを書き出します。その後、4色化する折全ページの印刷用PDFのM版（特色版）を、実際の刷色に近いCMYK値に一括で変換します。MCR46

リンク画像を修正したのみでネイティブデータを変更しておらず、該当ページ以外は印刷用PDFの再書き出しも行っていないため、安全で確実に4色データに置きかえることができました。



2色データの4色化イメージ